

エコスクールづくりを進める上での課題の抽出

1. 目的

報告書「環境を考慮した学校(エコスクール)の今後の推進方策について」(平成 21 年 3 月)取りまとめ、エコスクールを推進するために 3 つの基本的考え方(既存学校施設のエコスクールづくりを一層推進するなど)、4 つの推進方策(エコスクールの教材化など)を示した。

これまで、「環境教育に活用できる学校づくり実践事例集」を含め、4 つの推進方策に対応した事例集やガイドブック等を作成・配布するとともに、研修会等を開催し、エコスクールづくりについて普及啓発を行っている。

今後とも、耐震化や老朽化対策が必要な中でエコスクールづくりを推進していくため、エコスクールづくりを進める上での課題を抽出する。

2. 課題の抽出方法

(1)研修会等を活用してアンケート調査を実施。

①文教施設フォーラム セミナー1「未来につながる学校づくりセミナー」

(平成 22 年 10 月、全国 3 ヶ所)

対象:一般公募

参加者数:241 名(約 8 割が学校関係者(うち自治体関係者は全体の約 5 割))

②公立学校施設整備事務担当者研究協議会(平成 22 年 11 月、東京都主催)

対象:東京都の区市町村の学校施設担当者

参加者数:約 100 名

③公立文教施設担当技術者連絡会議(平成 22 年 6 月)

対象:都道府県及び指定都市の公立文教施設担当者

参加者数:172 名

④公立文教施設担当職員研修会(平成 22 年 10 月)

対象:都道府県及び指定都市の公立文教施設担当者(5 年以内未受講者)

参加者数:51 名

・主な質問項目

①・② ・エコスクールづくりを進める上での課題

・今後エコスクールづくりを進める際にあれば役立つ参考情報

③・④ ・自由記述からエコスクールに係る回答を抽出

(2)耐震化が完了した 3 自治体にヒアリングを実施。

3. エコスクールづくりを進める上での主な課題

アンケート及びヒアリング結果(別紙)より、次のようなエコスクールづくりを進める上での主な課題が見受けられる。

○厳しい財政状況

○他に優先すべき課題あり

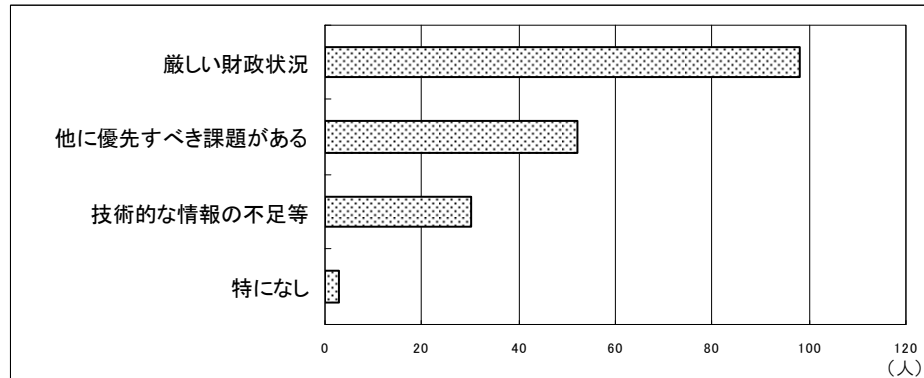
○エコスクールづくりを耐震化や老朽対策と併せて実施する効果的な方法

○各学校等でどの程度エコスクール化するかという目標設定(効果の数値化など)

1. アンケート結果概要

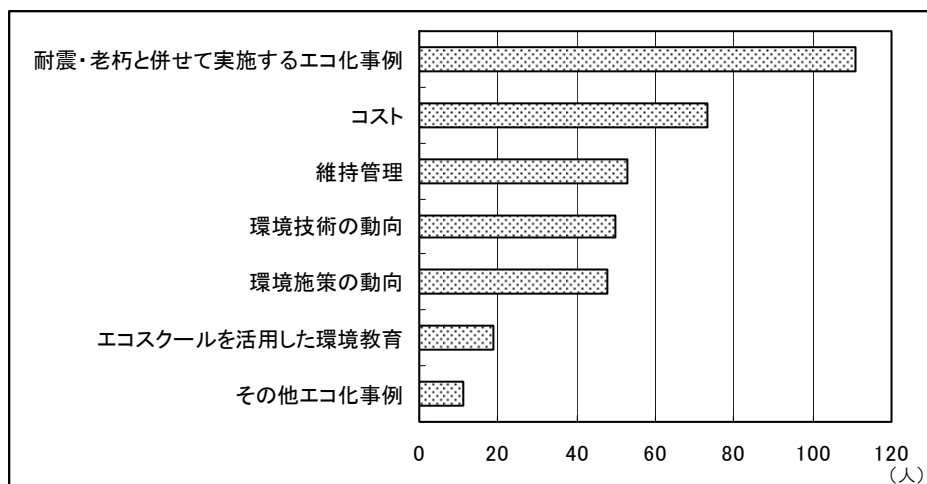
①文教施設フォーラム セミナー1(回答数 157)

(ア)課題(複数回答有)



- (その他) ・改修済みであるため、エコスクールのための改修は難しい
 ・多くのエコ関連施設、プライオリティーとターゲットが分らない
 ・地方での公共事業の趣旨(受注機会拡大など)と一致していない

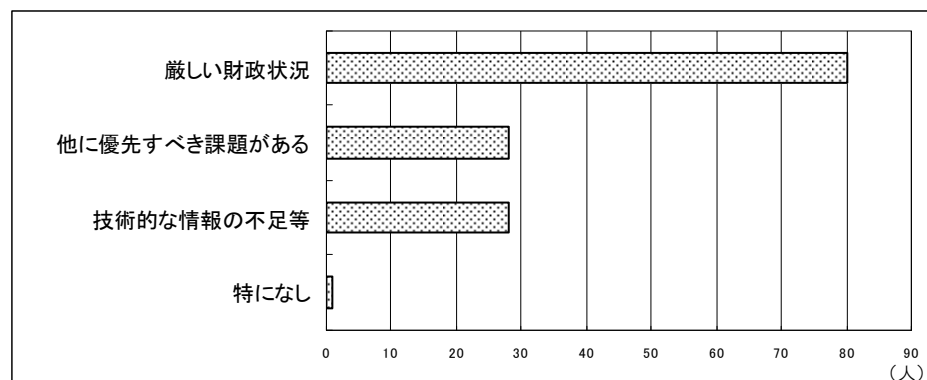
(イ)今後あれば役立つ参考情報(複数回答有)



- (その他) ・エコ化後の効果検証
 ・施設整備を伴わない事例等の発信周知

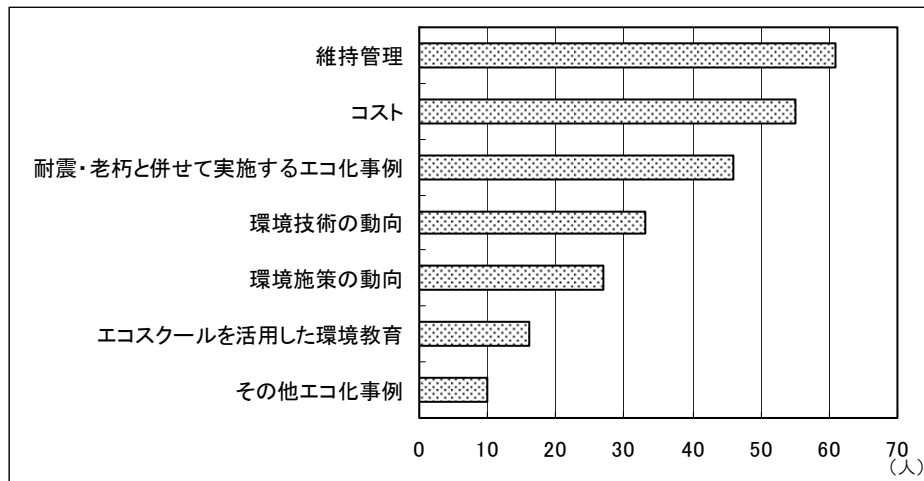
②公立学校施設整備事務担当者研究協議会(東京都主催)(回答数 94)

(ア)課題(複数回答有)



- (その他) ・エコの整備単位が棟単位であること(例:校舎雨水の校庭散水使用は対象外)
- ・ハードよりもソフトに課題
 - ・学校の理解
 - ・手続きの簡易化
 - ・効果と保守管理(コスト含む)
 - ・効果等の数値化
 - ・省エネ改正法に基づく中長期計画に計上した目標エネルギー値

(イ) 今後あれば役立つ参考情報(複数回答有)



- (その他) ・エコスクールの定義(芝生化、緑化は光熱水費増えるなど効果に疑問あり)
- ・施工後と施工前の違いについて

③ 公立文教施設担当技術者連絡会議

④ 公立文教施設担当職員研修会

- ・安全性、快適性、緊急性を優先。
- ・空調設備の設置が求められ、省エネ法による規制や温暖化対策からの逆行など方針と現場が求めるもののギャップがはげしい。
- ・耐震化の完了と、廃校施設利活用の優先。
- ・環境対策における数値目標がない。何をどこまで整備してよいかが、不明確。
- ・課題が多岐にわたっている(耐震化、省エネ化、情報化、(設備・建物)老朽化→改修)。
- ・大規模工事が夏休みしか出来ないため学校運営しながらだと何年もかかる。
- ・学校数が多いことと、学校施設担当部署の人員減による負担が大きい。

2. ヒアリング結果概要

東京近郊に所在し、耐震化が完了またはその目途が立っている自治体を対象に実施したヒアリングの概要は、次のとおり。

①自治体でのエコ化の方針

- ・厳しい財政事情の下で、自治体内での施策の優先度を考慮すると、エコ化だけの予算措置は難しいのが現実。
- ・毎年数校ずつ改築を実施しており、その際にエコ化（標準で整備するメニューを決めている）。
- ・既存校では、財政事情などから、主として仮設校舎を必要としない整備。

②エコ化に取り組む際の課題

- ・既存校舎では、老朽化対策の際のエコ化や緑化などに取り組む。
- ・既存校舎に太陽光発電を導入する場合の屋根荷重に応じた設置容量など技術的課題を解決する情報があると良い。
- ・緑化（屋上・壁面）や芝生化に取り組む方針はあるものの、それほど増えていない。
- ・特に、芝生化は、維持管理（手間・経費）の問題があるため、学校側が難色を示すことが多い。
- ・グラウンドの全面芝生化は、使用実態を考えると現実的ではない（すぐ駄目になる）ため、多くは一部だけを芝生化している。
- ・緑のカーテンは、初期投資が必要。

③環境教育の状況

- ・学校施設を積極的に活用して環境教育を行っている事例は、あまり聞いたことがない。
- ・太陽光発電の表示装置等も十分には活用されていないと思う。
- ・授業で使うためには「見える化」することが重要。